

初期臨床研修プログラム概要

<プログラムについて>

1. プログラム名称

日野市立病院初期臨床研修プログラム

2. プログラム番号

031476403

3. プログラム責任者

最高責任者	院長	井上 宗信
責任者	診療技術部長	三浦 弘志

4. プログラムの管理運営

実際の管理運営は臨床研修管理委員会が行い、協力型臨床研修病院及び臨床研修協力施設と緊密な連絡をとってプログラムの運営にあたる。なお、日野市立病院における指導医については各科ページ参照。

臨床研修管理委員会構成	委員長	三浦 弘志 (日野市立病院 診療技術部長・放射線科部長)
	副委員長	金森 英彬 (日野市立病院 消化器内科担当部長)
	委員	日野市立病院 24名
		協力型臨床研修病院 5名
		臨床研修協力施設 4名
		外部委員 1名

5. 教育課程

- (1) 毎年4月1日から開始するものとし、研修期間は2年間とする。
- (2) 研修開始前にオリエンテーションを実施。院内諸規程、施設設備概要と利用方法等の説明を行う。
- (3) 内科・外科など複数の診療科からなる科においては、研修医に対しては専門知識を教えるのではなく、研修プログラムに記載する如く、共通する初期臨床研修を経験させることを重視する。

6. 宿直体制

- (1) 宿直は17:15～8:30で、翌日は振替休日とする。
- (2) 研修スケジュールに基づく当該診療科の責任者の許可を最優先とする。
- (3) 内科、救急科ローテーション時は、月4回の宿直を上限とする。
その他の診療科ローテーション時に宿直を希望する場合は、当該診療科責任者の許可を得るものとする。また、履修中の診療科以外での宿直を希望する場合は、当該診療科及び宿直希望診療科の責任者の許可を得るものとする。
- (4) 宿直については、当該診療科での研修が主目的であり、当該診療科以外での宿直が当該診療科での研修に影響を及ぼさないように考慮すること。
- (5) 指導医の負担も考慮し、上記内容で疑義が生じる場合は、プログラム責任者または副責任者の判断によるものとする。
- (6) 協力型臨床研修病院における宿直体制については各々の規定による。

7. 時間外勤務について

- (1) 原則として 8:30～17:00 に全ての業務を終了し、平日の時間外勤務の上限は、就業後 17:00～20:00 とする。
- (2) 就業時間前の時間外勤務は原則禁止とする。ただし、各研修科の上級指導医等からカンファレンスの参加指導があった場合は時間外勤務を認めるものとする。
- (3) 時間外勤務の申請は上級指導医等に事前申請を行い、研修内容に関係のあることを確認の上、許可されたものとする。
- (4) 各研修科の上級指導医等から時間外に勤務するよう指示または命じられたものとし、月の時間外勤務の上限は 45 時間とする。

8. 連携施設

協力型臨床研修病院、臨床研修協力施設ともに P2 の＜臨床研修協力病院・臨床研修協力施設一覧＞を参照

9. 研修評価

EPOC オンライン評価システム (Evaluation system of Postgraduate Clinical training) により評価。

10. プログラム修了認定

2 年間の研修が終了した後に、臨床研修管理委員会において評価を行い、満足すべき研修を行い得た者に対しては、修了証書を交付する。

＜臨床研修協力病院・臨床研修協力施設一覧＞

○協力型臨床研修病院

病 院 名	病 院 長 名	研修実施責任者 (指導者) 名	住 所
東京医科大学 八王子医療センター	池田 寿昭	河地 茂行	193-0998 八王子市館町 1163
独立行政法人国立病院機構 災害医療センター	土井 庄三郎	関口 直宏	190-0014 立川市緑町 3256
国家公務員共済組合連合会 立川病院	片井 均	森谷 和徳	190-8531 立川市錦町 4-2-22
桜ヶ丘記念病院	岩下 覚	岩下 覚	206-0021 多摩市連光寺 1-1-1
北原国際病院	岡田 義文	岡田 義文	192-0045 八王子市大和田町 1-7-23

○臨床研修協力施設

病 院 名	病 院 長 名	研修実施責任者 (指導者) 名	住 所
野猿峠脳神経外科病院	西島 洋司	木根 一典	192-0372 八王子市下柚木 1974-1
渡辺整形外科	渡辺 理	渡辺 理	191-0062 日野市多摩平 1-14-2

高品クリニック	高品 尚哉	高品 尚哉	191-0011 日野市日野本町 1-12-13
南平山の上クリニック	八幡 憲喜	八幡 憲喜	191-0041 日野市南平 8-4-26

<到達目標>

医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を修得する。

A	医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的使命と公衆衛生への寄与 社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。 2. 利他的な態度 患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。 3. 人間性の尊重 患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。 4. 自らを高める姿勢 自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。
B	資質・能力
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学・医療における倫理性 診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。 2. 医学知識と問題対応能力 最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。 3. 診療技能と患者ケア 臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。 4. コミュニケーション能力 患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。 5. チーム医療の実践 医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。 6. 医療の質と安全の管理 患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。 7. 社会における医療の実践 医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。 8. 科学的探究 医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢 医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

C	基本的診療業務（コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる）
	<p>1. 一般外来診療 頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。</p> <p>2. 病棟診療 急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整ができる。</p> <p>3. 初期救急対応 緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。</p> <p>4. 地域医療 地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。</p>

＜研修の方略＞

日野市立病院、協力型臨床研修病院及び臨床研修協力施設におけるローテーションにより、各診療科間にまたがる複合的疾患患者や高度先進医療を要する患者等におけるプライマリ・ケアを学習し、また、全科当直によりあらゆるプライマリ・ケアを研修する。

1. 研修期間

日野市立病院、協力型臨床研修病院及び臨床研修協力施設における 2年間以上のローテーション

2. 分野・診療科

(1) 研修ローテーション（イメージ）

1年目（すべて必修）						
24週		12週 （4週まで麻酔科可）	4週	4週	4週	4週
内科（腎内、消化器、呼吸器、循環器）		救急	外科	小児科	産婦人科	精神科
2年目						
4週	48週					
地域医療（必修）	選択科目					

※ローテーションは順不同

※研修科目の選択はローテーションする前年12月末までに事務局に申し出ること

※地域医療は原則として2年次に実施

※一般外来研修は1年次の内科、2年次の地域医療と並行して行う

(2) 研修場所

	診療科	研修週	研修場所
必修	内科	24週	日野市立病院
	外科	4週	日野市立病院 東京医科大学八王子医療センター 立川病院

	小児科	4週	日野市立病院 立川病院
	産婦人科	4週	日野市立病院 立川病院
	精神科	4週	桜ヶ丘記念病院
	救急	12週	日野市立病院 災害医療センター 東京医科大学八王子医療センター
	地域医療	4週	渡辺整形外科 高品クリニック 南平山の上クリニック
選択	内科 麻酔科 小児科 産婦人科 放射線科	任意	日野市立病院 立川病院
	外科 脳神経外科		日野市立病院 東京医科大学八王子医療センター 立川病院 北原国際病院 野猿峠脳神経外科病院
	精神科		桜ヶ丘記念病院
	整形外科 皮膚科 泌尿器科 眼科 耳鼻咽喉科		日野市立病院 立川病院

3. 経験すべき症候

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

ショック、体重減少・るい瘦、発疹、黄疸、発熱、もの忘れ、頭痛、めまい、意識障害・失神、けいれん発作、視力障害、胸痛、心停止、呼吸困難、吐血・喀血、下血・血便、嘔気・嘔吐、腹痛、便通異常（下痢・便秘）、熱傷・外傷、腰・背部痛、関節痛、運動麻痺・筋力低下、排尿障害（尿失禁・排尿困難）、興奮・せん妄、抑うつ、成長・発達の障害、妊娠・出産、終末期の症候（29症候）

4. 経験すべき疾病・病態

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。

脳血管障害、認知症、急性冠症候群、心不全、大動脈瘤、高血圧、肺癌、肺炎、急性上気道炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、急性胃腸炎、胃癌、消化性潰瘍、肝炎・肝硬変、胆石症、大腸癌、腎盂腎炎、尿路結石、腎不全、高エネルギー外傷・骨折、糖尿病、脂質異常症、うつ病、統合失調症、依存症（ニコチン・アルコール・薬物・病的賭博）（26 疾病・病態）

＜達成度評価＞

研修医が到達目標を達成しているかどうかは、各分野・診療科のローテーション終了時に、医師及び医師以外の医療職が研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（EPOCにて入力）を用いて評価する。医師以外の医療職には、看護師及び薬剤師とする。

上記評価の結果を踏まえて、少なくとも年2回、プログラム責任者・研修管理委員会委員が、研修医に対して形成的評価（フィードバック）を行い、2年間の研修終了時に、研修管理委員会において、研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（EPOCにて入力）を勘案して作成される「臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて、到達目標の達成状況について評価する。

※【参考】評価票

（1）研修医評価票Ⅰ（A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)に関する評価)

レベル	レベル1 期待を大きく下回る	レベル2 期待を下回る	レベル3 期待通り	レベル4 期待を大きく上回る	観察機会なし
A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与 社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
A-2. 利他的な態度 患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
A-3. 人間性の尊重 患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
A-4. 自らを高める姿勢 自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※「期待」とは、「研修修了時に期待される状態」とする。

（2）研修医評価票Ⅱ（B. 資質・能力に関する評価)

1. 医学・医療における倫理性： 診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。			
レベル1 モデル・コア・カリキュラム	レベル2	レベル3 研修終了時で期待されるレベル	レベル4
■医学・医療の歴史的な流れ、臨床倫理や生と死に	人間の尊厳と生命の不可侵性に関して尊重の念を	人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。	モデルとなる行動を他者に示す。

係る倫理的問題、各種倫理に関する規範を概説できる。 ■患者の基本的権利、自己決定権の意義、患者の価値観、インフォームドコンセントとインフォームドアセントなどの意義と必要性を説明できる。 ■患者のプライバシーに配慮し、守秘義務の重要性を理解した上で適切な取り扱いができる。	示す。		
	患者のプライバシーに最低限配慮し、守秘義務を果たす。	患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。	モデルとなる行動を他者に示す。
	倫理的ジレンマの存在を認識する。	倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。	倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づいて多面的に判断し、対応する。
	利益相反の存在を認識する。	利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。	モデルとなる行動を他者に示す。
	診療、研究、教育に必要な透明性確保と不正行為の防止を認識する。	診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。	モデルとなる行動を他者に示す。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 観察する機会が無かった			

2. 医学知識と問題対応能力： 最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。							
レベル1 モデル・コア・カリキュラム	レベル2	レベル3 研修終了時に期待されるレベル		レベル4			
■必要な課題を発見し、重要性・必要性に照らし、順位付けをし、解決にあたり、他の学習者や教員と協力してより良い具体的な方法を見出すことができる。適切な自己評価と改善のための方策を立てることができる。 ■講義、教科書、検索情報などを統合し、自らの考えを示すことができる。	頻度の高い症候について、基本的な鑑別診断を挙げ、初期対応を計画する。	頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。		主な症候について、十分な鑑別診断と初期対応をする。			
	基本的な情報を収集し、医学的知見に基づいて臨床決断を検討する。	患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。		患者に関する詳細な情報を収集し、最新の医学的知見と患者の意向や生活の質への配慮を統合した臨床決断をする。			
	保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案する。	保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。		保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、患者背景、多職種連携も勘案して実行する。			
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
<input type="checkbox"/> 観察する機会が無かった							

3. 診療技能と患者ケア： 臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。							
レベル1 モデル・コア・カリキュラム	レベル2	レベル3 研修終了時に期待されるレベル		レベル4			
■必要最低限の病歴を聴取し、網羅的に系統立てて、身体診察を行うこと	必要最低限の患者の健康状態に関する情報を心理・社会的側面を含めて、安全に	患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に		複雑な症例において、患者の健康に関する情報を心理・社会的側面を含めて、			
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

<p>ができる。</p> <p>■基本的な臨床技能を理解し、適切な態度で診断治療を行うことができる。</p> <p>■問題志向型医療記録形式で診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。</p> <p>■緊急を要する病態、慢性疾患、に関して説明ができる。</p>	収集する。		収集する。		効果的かつ安全に収集する。	
	基本的な疾患の最適な治療を安全に実施する。		患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。		複雑な疾患の最適な治療を患者の状態に合わせて安全に実施する。	
	最低限必要な情報を含んだ診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切に作成する。		診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。		必要かつ十分な診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成でき、記載の模範を示せる。	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 観察する機会が無かった						

<p>4. コミュニケーション能力：</p> <p>患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。</p>						
<p>レベル1 モデル・コア・カリキュラム</p>	<p>レベル2</p>		<p>レベル3 研修終了時に期待されるレベル</p>		<p>レベル4</p>	
<p>■コミュニケーションの方法と技能、及ぼす影響を概説できる。</p> <p>■良好な人間関係を築くことができ、患者・家族に共感できる。</p> <p>■患者・家族の苦痛に配慮し、分かりやすい言葉で心理的社会的課題を把握し、整理できる。</p> <p>■患者の要望への対処の仕方を説明できる。</p>	<p>最低限の言葉遣い、態度、身だしなみで患者や家族に接する。</p>		<p>適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。</p>		<p>適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで、状況や患者家族の思いに合わせた態度で患者や家族に接する。</p>	
	<p>患者や家族にとって必要最低限の情報を整理し、説明できる。指導医とともに患者の主体的な意思決定を支援する。</p>		<p>患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。</p>		<p>患者や家族にとって必要かつ十分な情報を適切に整理し、分かりやすい言葉で説明し、医学的判断を加味した上で患者の主体的な意思決定を支援する。</p>	
	<p>患者や家族の主要なニーズを把握する。</p>		<p>患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。</p>		<p>患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握し、統合する。</p>	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 観察する機会が無かった						

<p>5. チーム医療の実践：</p> <p>医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。</p>						
<p>レベル1 モデル・コア・カリキュラム</p>	<p>レベル2</p>		<p>レベル3 研修終了時に期待されるレベル</p>		<p>レベル4</p>	
<p>■チーム医療の意義を説明でき、(学生として)チームの一員として診療に参加できる。</p> <p>■自分の限界を認識し、他</p>	<p>単純な事例において、医療を提供する組織やチームの目的等を理解する。</p>		<p>医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。</p>		<p>複雑な事例において、医療を提供する組織やチームの目的とチームの目的等を理解したうえで実践する。</p>	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

の医療従事者の援助を求めることができる。 ■チーム医療における医師の役割を説明できる。	単純な事例において、チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。	チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。	チームの各構成員と情報を積極的に共有し、連携して最善のチーム医療を実践する。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 観察する機会が無かった			

6. 医療の質と安全の管理： 患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。			
レベル1 モデル・コア・カリキュラム	レベル2	レベル3 研修終了時に期待されるレベル	レベル4
■医療事故の防止において個人の注意、組織的なリスク管理の重要性を説明できる ■医療現場における報告・連絡・相談の重要性、医療文書の改ざんの違法性を説明できる ■医療安全管理体制の在り方、医療関連感染症の原因と防止に関して概説できる	医療の質と患者安全の重要性を理解する。	医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。	医療の質と患者安全について、日常的に認識・評価し、改善を提言する。
	日常業務において、適切な頻度で報告、連絡、相談ができる。	日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。	報告・連絡・相談を実践するとともに、報告・連絡・相談に対応する。
	一般的な医療事故等の予防と事後対応の必要性を理解する。	医療事故等の予防と事後の対応を行う。	非典型的な医療事故等を個別に分析し、予防と事後対応を行う。
	医療従事者の健康管理と自らの健康管理の必要性を理解する。	医療従事者の健康管理(予防接種や針刺し事故への対応を含む。)を理解し、自らの健康管理に努める。	自らの健康管理、他の医療従事者の健康管理に努める。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 観察する機会が無かった			

7. 社会における医療の実践： 医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。			
レベル1 モデル・コア・カリキュラム	レベル2	レベル3 研修終了時に期待されるレベル	レベル4
■離島・へき地を含む地域社会における医療の状況、医師偏在の現状を概説できる。 ■医療計画及び地域医療構想、地域包括ケア、地域保健などを説明できる。 ■災害医療を説明できる ■(学生として)地域医療に積極的に参加・貢献する	保健医療に関する法規・制度を理解する。	保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。	保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解し、実臨床に適用する。
	健康保険、公費負担医療の制度を理解する。	医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。	健康保険、公費負担医療の適用の可否を判断し、適切に活用する。
	地域の健康問題やニーズを把握する重要性を理解する。	地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。	地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案・実行する。
	予防医療・保健・健康増進の必要性を理解する。	予防医療・保健・健康増進に努める。	予防医療・保健・健康増進について具体的な改善案などを提示する。
	地域包括ケアシステムを理解する。	地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。	地域包括ケアシステムを理解し、その推進に積極的に参画する。

	災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要が起こりうることを理解する。	災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。	災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要を想定し、組織的な対応を主導する実際に対応する。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 観察する機会が無かった			
8. 科学的探究：			
医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。			
レベル1 モデル・コア・カリキュラム	レベル2	レベル3 研修終了時に期待されるレベル	レベル4
<ul style="list-style-type: none"> ■研究は医学・医療の発展や患者の利益の増進のために行われることを説明できる。 ■生命科学の講義、実習、患者や疾患の分析から得られた情報や知識を基に疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。 	医療上の疑問点を認識する。	医療上の疑問点を研究課題に変換する。	医療上の疑問点を研究課題に変換し、研究計画を立案する。
	科学的研究方法を理解する。	科学的研究方法を理解し、活用する。	科学的研究方法を目的に合わせて活用実践する。
	臨床研究や治験の意義を理解する。	臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。	臨床研究や治験の意義を理解し、実臨床で協力・実施する。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 観察する機会が無かった			

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢：			
医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。			
レベル1 モデル・コア・カリキュラム	レベル2	レベル3 研修終了時に期待されるレベル	レベル4
<ul style="list-style-type: none"> ■生涯学習の重要性を説明でき、継続的学習に必要な情報を収集できる。 	急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収の必要性を認識する。	急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。	急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収のために、常に自己省察し、自己研鑽のために努力する。
	同僚、後輩、医師以外の医療職から学ぶ姿勢を維持する。	同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。	同僚、後輩、医師以外の医療職と共に研鑽しながら、後進を育成する。
	国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）の重要性を認識する。	国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握する。	国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握し、実臨床に活用する。
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 観察する機会が無かった			

(3) 研修医評価票 Ⅲ (C. 基本的診療業務) に関する評価)

レベル	レベル1 指導医の 直接の監 督の下で できる	レベル2 指導医が すぐに対 応できる 状況下で できる	レベル3 ほぼ単独 でできる	レベル4 後進を指 導できる	観察 機会 なし
C-1. 一般外来診療 頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診 断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
C-2. 病棟診療 急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者 の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整 ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
C-3. 初期救急対応 緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断 し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
C-4. 地域医療 地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介 護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

<募集・処遇等>

1. 募集及び選考方法

募集方法	公募
募集人数	3名
応募必要書類	卒業（見込）証明書、推薦書、履歴書
選考方法	面接
選考試験	随時（マッチング中間公表日の前々日まで）
研修期間	2022年4月1日～2024年3月31日
マッチング	当院はマッチング参加施設のため、応募者は必ずマッチングに参加すること

2. 研修医の処遇

身分	会計年度任用職員
報酬	月額 300,000 円
各種手当	住宅手当（家賃のうち 50%は病院負担） 時間外手当、特殊勤務手当、宿日直手当ほか
社会保険等	健康保険、厚生年金、雇用保険、労災
基本的な勤務時間	月～金 8:30～17:00（休憩 1 時間、その他時間外勤務・日当直勤務有）
休暇	有給休暇（計 20 日）、夏季休暇（5 日）、結婚休暇ほか
職員住宅	市内賃貸物件のみ法人契約による借上げ方式 （毎月の家賃 50%及び入居時の礼金・敷金・仲介手数料は病院負担）
研修医専用室	有
健康診断	年 2 回実施
予防接種	有料...インフルエンザ、麻疹、おたふくかぜ、風疹、水痘（ワクチン代のみ） 無料...B 型肝炎
医師賠償責任保険	当院を被保険者とした賠償責任保険に加入
研修活動	学会・研究会への参加可（回数、金額制限あり）
アルバイト	アルバイト診療は禁止

＜研修修了後の進路＞

内科専攻医

研修目的	初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群で3年間（基幹施設2年間+連携施設1年間）に豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能の習得を目的としています。
臨床研修責任	副院長 林 篤
研修期間	3年間
連携施設	東京都立多摩総合医療センター 国家公務員共済組合連合会 立川病院 東海大学医学部附属八王子病院 杏林大学医学部附属病院
ホームページ	http://hospital.city.hino.tokyo.jp/recruit/internal_clinic/index.html

＜日本医療機能評価機構＞

当院は（財）日本医療機能評価機構（3rdG Ver2.0）の認定を受けています。

＜資料請求先＞

〒191-0062 東京都日野市多摩平4-3-1
日野市立病院 臨床研修管理委員会 事務局
TEL : 042-581-2677（内線 2312） FAX : 042-587-3408
<http://www.city.hino.tokyo.jp/hospital/>